

秋田市内企業景況調査結果

(2020年10~12月期)

秋田商工会議所

＜内容＞

- ・ 全産業の項目別 D I 値
- ・ 産業別 D I 値
- ・ 設備投資
- ・ 経営上の問題点
- ・ 付帯調査
- ・ 総括表

＊ 景気判断・D I 値とは、「増加」・「好転」・「過剰」したとする企業割合から「減少」・「悪化」・「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。(▲：マイナス)

＜回収状況＞

業 種	対象企業数	有効回答企業数
建設業	50	40 (80.0%)
製造業	50	39 (78.0%)
卸売業	50	35 (70.0%)

業 種	対象企業数	有効回答企業数
小売業	50	38 (76.0%)
サービス業	50	42 (84.0%)
合 計	250	194 (77.6%)

I. 全産業の項目別 D I 値

1. 業況

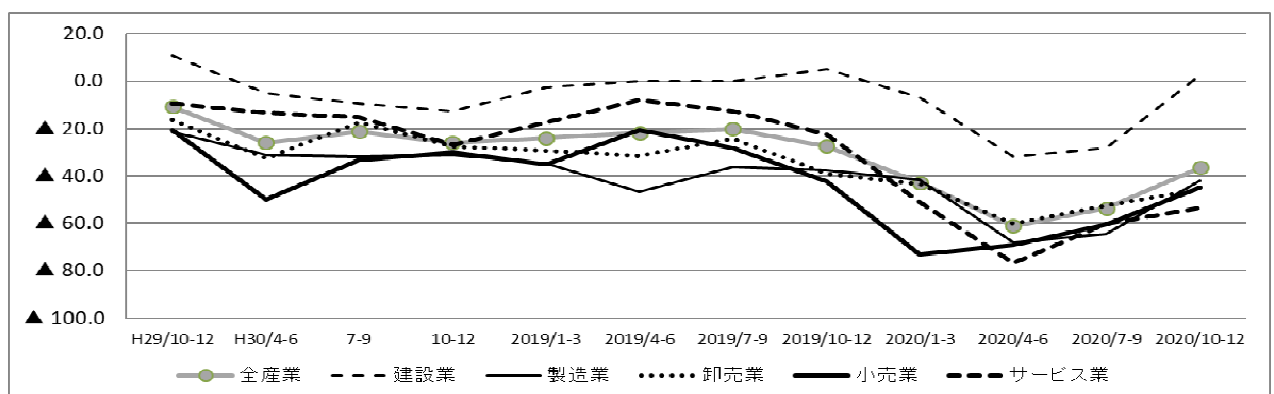
今期(10~12月前年同期比)の業況 D I 値は、全産業で▲36.5 と前期と比べ大幅に改善した。

産業別では、すべての業種で改善した。特に建設業はプラス 30.7 ポイントと大幅に改善し、前期のマイナスからプラスに転じた。一方、サービス業は▲53.6 と厳しい状況が続いている。

来期の見通し(1~3月)では、全産業で▲42.5 と今期と比べ悪化を見通している。

産業別では、卸売業が横ばい、建設業が今期のプラスからマイナスに転じる見通しをしている。また、小売業は大幅に悪化し▲60.5 と厳しい状況を見通している。一方、サービス業、製造業は改善を見通している。

	前期(7~9月)		今期(10~12月)			
	(A)	来期見通し(10~12月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通し(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全 産 業	▲ 53.7	▲ 43.6	▲ 36.5	+17.2	▲ 42.5	-6.0
建 設 業	▲ 28.2	▲ 7.5	2.5	+30.7	▲ 22.5	-25.0
製 造 業	▲ 64.5	▲ 52.3	▲ 42.1	+22.4	▲ 38.3	+3.8
卸 売 業	▲ 52.5	▲ 50.0	▲ 45.7	+6.8	▲ 45.7	0.0
小 売 業	▲ 60.5	▲ 52.4	▲ 44.7	+15.8	▲ 60.5	-15.8
サ ー ビ ス 業	▲ 60.0	▲ 53.3	▲ 53.6	+6.4	▲ 46.4	+7.2



2. 売上額・完成工事額

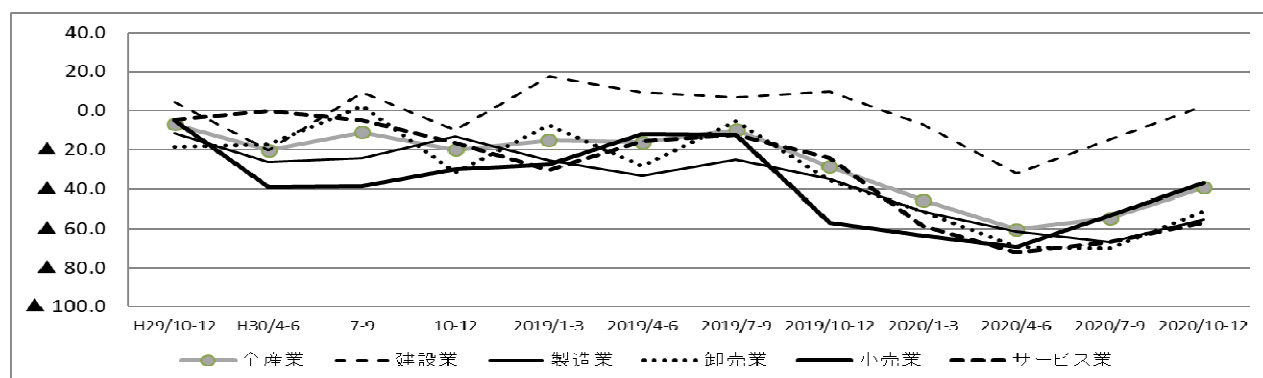
今期(10～12 月前年同期比)の売上額・完成工事額のD I 値は、全産業で▲39.3 と前期と比べ大幅に改善した。

産業別では、すべての業種で改善し、建設業は前期のマイナスからプラスに転じた。一方、サービス業、製造業、卸売業は厳しい状況が続いている。

来期の見通し(1～3 月)では、全産業で▲45.6 と今期と比べ悪化を見通している。

産業別では、建設業が今期のプラスからマイナスに転じる見通しをしている。小売業、卸売業は悪化し、厳しい状況を見通している。一方、製造業、サービス業は改善を見通している。

	前期(7～9月)		(C)	今期(10～12月)		
	(A)	来期見通し (10～12月)		前期比	来期見通し(1～3月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
全 産 業	▲ 54.7	▲ 44.8	▲ 39.3	+15.4	▲ 45.6	-6.3
建 設 業	▲ 14.7	▲ 2.5	2.5	+17.2	▲ 2.5	-5.0
製 造 業	▲ 66.7	▲ 53.3	▲ 55.3	+11.4	▲ 44.8	+10.5
卸 売 業	▲ 70.0	▲ 57.5	▲ 51.4	+18.6	▲ 60.0	-8.6
小 売 業	▲ 53.4	▲ 51.2	▲ 36.8	+16.6	▲ 71.0	-34.2
サ ー ビ ス 業	▲ 66.7	▲ 57.8	▲ 57.1	+9.6	▲ 52.4	+4.7



3. 資金繰り

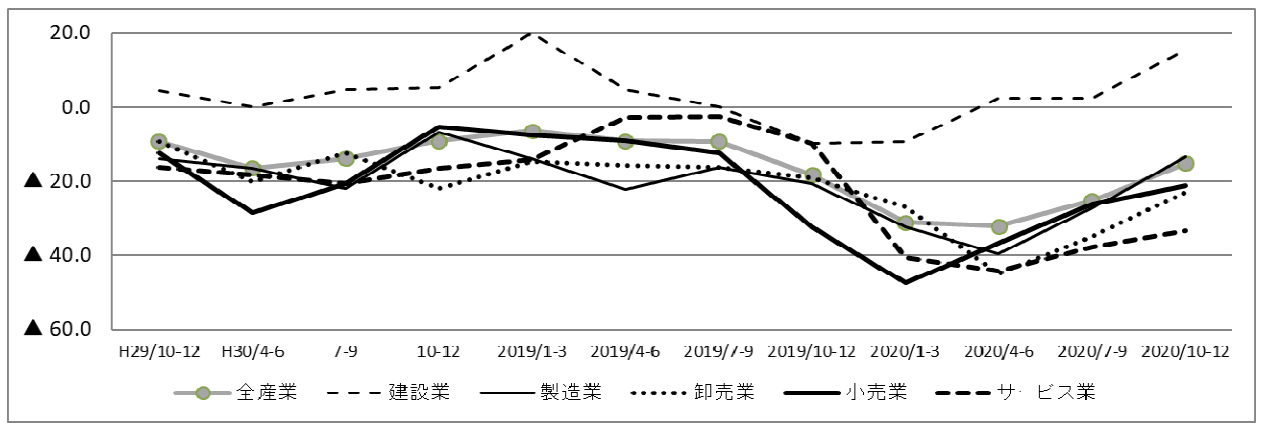
今期(10～12 月前年同期比)の資金繰りのD I 値は、全産業で▲15.2 と前期と比べ改善した。

産業別では、建設業がプラスは幅を拡大、他の4業種も改善した。

来期の見通し(1～3 月)では、全産業で▲24.4 と今期と比べ悪化を見通している。

産業別では、建設業がプラス幅を縮小、小売業、製造業、サービス業は悪化を見通している。一方、卸売業はわずかながら改善を見通している。

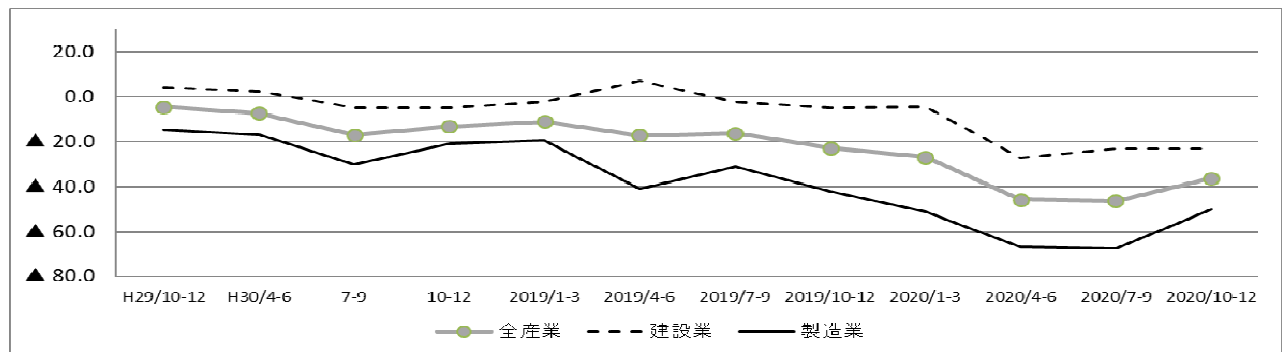
	前期(7～9月)		(C)	今期(10～12月)		
	(A)	来期見通し (10～12月)		前期比	来期見通し(1～3月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
全 産 業	▲ 25.1	▲ 27.0	▲ 15.2	+9.9	▲ 24.4	-9.2
建 設 業	2.5	7.5	15.4	+12.9	5.0	-10.4
製 造 業	▲ 27.3	▲ 40.0	▲ 13.5	+13.8	▲ 28.9	-15.4
卸 売 業	▲ 35.0	▲ 35.9	▲ 22.9	+12.1	▲ 20.0	+2.9
小 売 業	▲ 26.2	▲ 26.2	▲ 21.1	+5.1	▲ 40.5	-19.4
サ ー ビ ス 業	▲ 37.8	▲ 37.8	▲ 33.4	+4.4	▲ 38.1	-4.7



4. 受注残（未消化工事高）

今期（10～12 月前年同期比）の受注残の D I 値は、全産業で▲36.4 と前期と比べ改善した。
 産業別では、建設業は横ばい、製造業は改善したものの、厳しい状況が続いている。
 来期の見通し（1～3 月）では、全産業で▲30.7 と今期と比べ改善を見通している。
 産業別では、製造業は大幅な改善を見通す一方、建設業は悪化を見通している。

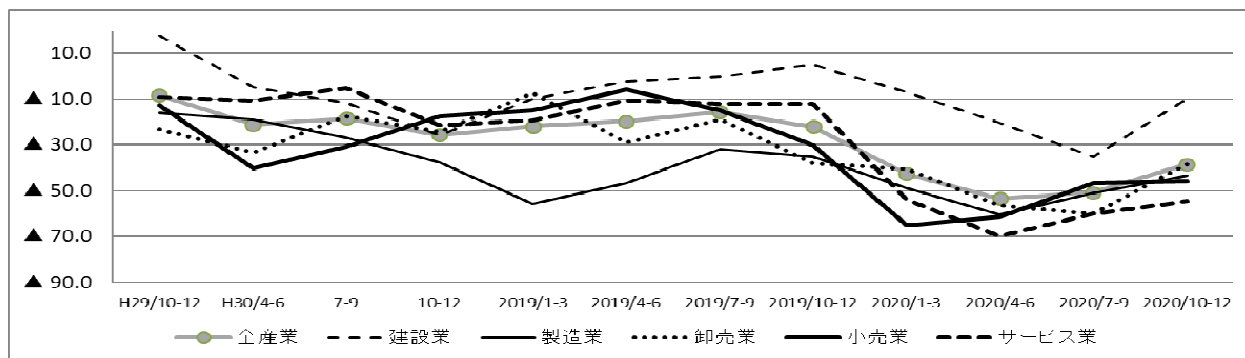
	前期（7～9月）		今期（10～12月）			
	(A)	来期見通し (10～12月)	(C)	前期比	来期見通し(1～3月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
全産業	▲ 46.3	▲ 38.5	▲ 36.4	+9.9	▲ 30.7	+5.7
建設業	▲ 23.1	▲ 22.5	▲ 23.1	0.0	▲ 27.5	-4.4
製造業	▲ 67.4	▲ 53.4	▲ 50.0	+17.4	▲ 34.2	+15.8



5. 採算（経常利益）

今期（10～12 月前年同期比）の採算の D I 値は、全産業で▲38.4 と前期と比べ改善した。
 産業別では、すべての業種で改善した。特に建設業、卸売業はそれぞれプラス 25.0 ポイント、プラス 21.7 ポイントと大幅に改善した。
 来期の見通し（1～3 月）では、全産業で▲42.4 と今期と比べ悪化を見通している。
 産業別では、建設業、小売業、卸売業、製造業で悪化を見通している。一方、サービス業は改善の見通しをしている。

	前期（7～9月）		今期（10～12月）			
	(A)	来期見通し (10～12月)	(C)	前期比	来期見通し(1～3月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
全産業	▲ 50.7	▲ 45.3	▲ 38.4	+12.3	▲ 42.4	-4.0
建設業	▲ 35.0	▲ 17.5	▲ 10.0	+25.0	▲ 20.0	-10.0
製造業	▲ 51.1	▲ 55.5	▲ 43.3	+7.8	▲ 47.3	-4.0
卸売業	▲ 60.0	▲ 57.5	▲ 38.3	+21.7	▲ 44.2	-5.9
小売業	▲ 46.5	▲ 42.9	▲ 46.0	+0.5	▲ 54.1	-8.1
サービス業	▲ 60.0	▲ 51.1	▲ 54.7	+5.3	▲ 47.7	+7.0



6. 従業員（含む臨時）

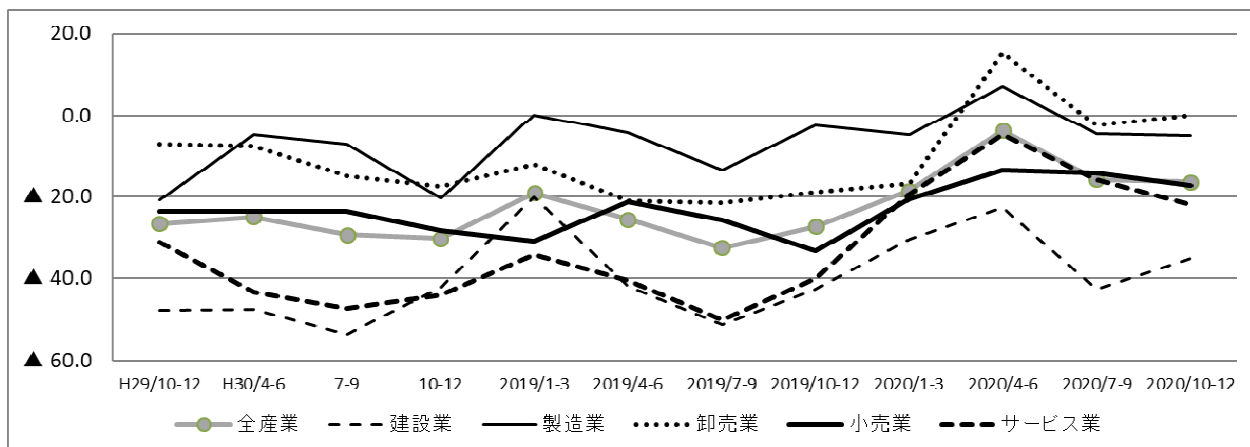
今期(10～12月前年同期比)の従業員のD1値は、全産業で▲16.4と前期と比べわずかながら不足感を拡大した。

産業別では、サービス業、小売業、製造業は不足感を拡大した。一方、建設業、卸売業は不足感を縮小した。

来期の見通し(1～3月)では、全産業で▲11.6と今期と比べ不足感の縮小を見通している。

産業別では、小売業が横ばい、建設業、サービス業、製造業は不足感の縮小を見通し、卸売業は過剰感の拡大を見通している。

	前期(7～9月)		今期(10～12月)			
	(A)	来期見通し (10～12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通し(1～3月) (D)	今期比 (D)-(C)
		(B)				
全産業	▲ 15.8	▲ 14.9	▲ 16.4	-0.6	▲ 11.6	+4.8
建設業	▲ 42.5	▲ 37.5	▲ 35.0	+7.5	▲ 27.5	+7.5
製造業	▲ 4.6	▲ 4.5	▲ 5.2	-0.6	▲ 2.7	+2.5
卸売業	▲ 2.6	▲ 2.7	0.0	+2.6	8.5	+8.5
小売業	▲ 14.3	▲ 17.1	▲ 17.2	-2.9	▲ 17.2	0.0
サービス業	▲ 15.9	▲ 13.6	▲ 21.9	-6.0	▲ 17.0	+4.9



Ⅱ. 産業別 D I 値

1. 建設業

今期(10～12 月前年同期比)の項目別 D I 値は、業況が 2.5 と前期と比べプラス 30.7 ポイントの大幅な改善となった。

項目別では、受注残が横ばい、資金繰りがプラス幅を拡大、採算は大幅な改善、完成工事額は前期のマイナスからプラスに転じた。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「繰越工事の完工に伴い、完成工事額、経常利益が増加」(総合工事)とのコメントがある一方、「完成工事額が前年比 20% 余り落ち込んでいる」(職別工事)とのコメントがあった。

来期の見通し(1～3 月)では、業況が▲22.5 と今期と比べ、マイナス 25.0 ポイントの大幅な悪化の見通しをしている。

項目別では、資金繰り、完成工事額がプラス幅を縮小、完成工事額は今期のプラスからマイナスに転じる見通しをしている。他の項目も悪化の見通しをしている。従業員は不足感の縮小を見通している。

企業からは、「前年からの繰越による竣工が主であり、受注は厳しくなりそう」(設備工事)とのコメントがある一方、「今年度後半から受注が順調であり、来期の受注残も多い」(総合工事)とのコメントがあった。

	前期(7～9月)		(C)	今期(10～12月)		
	(A)	来期見通し (10～12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通し(1～3月) (D)	今期比 (D)-(C)
業 況	▲ 28.2	▲ 7.5	2.5	+30.7	▲ 22.5	-25.0
完 成 工 事 額	▲ 14.7	▲ 2.5	2.5	+17.2	▲ 2.5	-5.0
資 金 繰 り	2.5	7.5	15.4	+12.9	5.0	-10.4
受 注 残	▲ 23.1	▲ 22.5	▲ 23.1	0.0	▲ 27.5	-4.4
採 算 (経 常 利 益)	▲ 35.0	▲ 17.5	▲ 10.0	+25.0	▲ 20.0	-10.0
従 業 員 (含 む 臨 時)	▲ 42.5	▲ 37.5	▲ 35.0	+7.5	▲ 27.5	+7.5

2. 製造業

今期(10～12 月前年同期比)の項目別 D I 値は、業況が▲42.1 と前期と比べ大幅に改善した。

項目別では、受注残、資金繰り、売上額、採算で改善したものの、売上額、受注残は厳しい状況が続いている。従業員はわずかながら不足感を拡大した。

企業からは、「コロナの影響で巣ごもり用に向けた食材等が良かった」(水産物)とのコメントがある一方、「10 月の売上は昨年同月の消費税増税に伴う大幅減の裏返しにより二桁増となったが、11 月中旬からの新型コロナウイルス感染再拡大により出荷は悪化。12 月は忘年会が軒並み中止、巣ごもりクリスマス、料飲店の時短営業、帰省の自粛などにより出荷は低迷。年末年始の稼ぎ時に新型コロナウイルス感染第三波の影響がモロに直撃した形となっている」(飲料品)とのコメントがあった。

来期の見通し(1～3 月)では、業況は▲38.3 と今期と比べ改善を見通している。

項目別では、受注残、売上額で改善を見通す一方、資金繰り、採算は悪化を見通している。従業員はわずかながら不足感の縮小を見通している。

企業からは、「例年と比較して早い時期に受注が確定したので、工程が管理しやすい。コロナ感染者が増加して受注が減少しないか不安である」(金属製品)とのコメントがある一方、「感染の終息に見切りをつけた飲食店の廃業が増えると考えられる。また、残業代やボーナスが激減して年収が下がった世帯は多いと思われ、今後支出の切り詰めの影響が表れるだろう」(飲料品)とのコメントがあった。

	前期(7～9月)		(C)	今期(10～12月)		
	(A)	来期見通し (10～12月)		前期比	来期見通し(1～3月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業 況	▲ 64.5	▲ 52.3	▲ 42.1	+22.4	▲ 38.3	+3.8
売 上 額	▲ 66.7	▲ 53.3	▲ 55.3	+11.4	▲ 44.8	+10.5
資 金 繰 り	▲ 27.3	▲ 40.0	▲ 13.5	+13.8	▲ 28.9	-15.4
受 注 残	▲ 67.4	▲ 53.4	▲ 50.0	+17.4	▲ 34.2	+15.8
採 算(経 常 利 益)	▲ 51.1	▲ 55.5	▲ 43.3	+7.8	▲ 47.2	-3.9
従 業 員(含 む 臨 時)	▲ 4.6	▲ 4.5	▲ 5.2	-0.6	▲ 2.7	+2.5

3. 卸売業

今期(10～12 月前年同期比)の項目別 D I 値は、業況が▲45.7 と前期と比べ改善した。

項目別では、採算、売上額、資金繰りが改善したものの、売上額は厳しい状況が続いている。従業員はわずかながら不足感を縮小し、0 となった。

企業からは、「コロナ禍により都市部の売上が不調のため、地方市場に商品が集まることで仕入価格が低下。粗利益は確保できている」(水産物)とのコメントがある一方、「10、11 月は GOTO キャンペーンのおかげで売上回復傾向も 12 月以降はコロナ感染拡大で再び悪化した」(物産)とのコメントがあった。

来期の見通し(1～3 月)では、業況が今期と同数値を見通している。

項目別では、資金繰りでわずかながら改善を見通す一方、売上額、採算で悪化を見通しており、特に売上額は厳しい状況が続く見通しをしている。従業員は今期の 0 から 8.5 の過剰を見通している。

企業からは、「お土産市場が不透明なため、予測ができない状況である」(食料品)、「今期同様コロナ感染拡大の影響が出る見通し」(物産)とのコメントがあった。

	前期(7～9月)		(C)	今期(10～12月)		
	(A)	来期見通し (10～12月)		前期比	来期見通し(1～3月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業 況	▲ 52.5	▲ 50.0	▲ 45.7	+6.8	▲ 45.7	0.0
売 上 額	▲ 70.0	▲ 57.5	▲ 51.4	+18.6	▲ 60.0	-8.6
資 金 繰 り	▲ 35.0	▲ 35.9	▲ 22.9	+12.1	▲ 20.0	+2.9
採 算(経 常 利 益)	▲ 60.0	▲ 57.5	▲ 38.3	+21.7	▲ 44.2	-5.9
従 業 員(含 む 臨 時)	▲ 2.6	▲ 2.7	0.0	+2.6	8.5	+8.5

4. 小売業

今期(10～12 月前年同期比)の項目別 D I 値は、業況が▲44.7 と前期と比べ大幅に改善した。

項目別では、売上額、資金繰り、採算が改善した。特に売上額はプラス 16.6 ポイントと大幅に改善した。従業員はわずかながら不足感を拡大した。

企業からは、「県内では新型コロナウイルスの影響が減少し、メーカーの商品改良等が相次いでいることから市場が活発化傾向にあり、商品の出荷遅れや販売価格の低下はあるものの、昨年の消費税増税直後の落ち込みが大きかった分、増収・増益となった」(自動車)とのコメントがある一方、「クリスマス商品の原料において他業種とのイチゴの争奪戦があり、予約を断らざるを得なかった。秋田の他の菓子店でも同様である。問屋は装飾品(オーナメント)のキャンセルに苦しんでいる」(食料品)とのコメントがあった。

来期の見通し(1～3 月)では、業況が▲60.5 と今期と比べ大幅な悪化を見通している。

項目別では、売上額、資金繰り、採算で悪化を見通している。特に売上額、資金繰りはそれぞれマイナス 34.2 ポイント、マイナス 19.4 ポイントの大幅な悪化を見通している。従業員は横ばいを見通している。

企業からは、「全国的に新型コロナウイルス感染拡大が深刻化している中、メーカーの商品改良等でコンパクトカーを中心に市場が活発化し、一部商品でメーカーの生産が逼迫し、出荷遅れが発生していることに加え、緊急事態宣言等の影響から更に商品の出荷遅れ

が予測されることから減収・減益を見込む」（自動車）とのコメントがある一方、「引き続き厳しい状況だが、雪が多いと売上はプラスに働くため、現在 12 月の天候状況から見るとコロナのマイナス分を多少カバーできるかもしれない」（身の回り品）とのコメントがあった。

	前 期 (7~9月)		(C)	今 期 (10~12月)		
	(A)	来期見通し (10~12月)		前期比	来期見通し (1~3月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業 況	▲ 60.5	▲ 52.4	▲ 44.7	+15.8	▲ 60.5	-15.8
売 上 額	▲ 53.4	▲ 51.2	▲ 36.8	+16.6	▲ 71.0	-34.2
資 金 繰 り	▲ 26.2	▲ 26.2	▲ 21.1	+5.1	▲ 40.5	-19.4
採 算 (経 常 利 益)	▲ 46.5	▲ 42.9	▲ 46.0	+0.5	▲ 54.1	-8.1
従 業 員 (含 む 臨 時)	▲ 14.3	▲ 17.1	▲ 17.2	-2.9	▲ 17.2	+0.0

5. サービス業

今期(10~12 月前年同期比)の項目別 D I 値は、業況が▲53.6 と前期と比べ改善したものの、厳しい状況が続いている。

項目別では、売上額、採算、資金繰りが改善したものの、売上額、採算はともに厳しい状況が続いている。従業員は不足感を拡大した。

企業からは、「継続的売上の確保による売上増」（情報サービス）とのコメントがある一方、「国産材、亜鉛鉱等の取扱数量の減少、定期傭船（内航海運業）の減少等により、前年同期比で約 19%減少となる見込」（運輸業）とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3 月)では、業況が▲46.4 と今期と比べ改善を見通している。

項目別では、採算、売上額で改善を見通すものの、売上額は厳しい状況が続く見通しをしている。一方、資金繰りは悪化を見通している。従業員は不足感の縮小を見通している。

企業からは、「コロナ禍においてオンラインに関する事業が伸びてきているため、売上増加を見込む」（情報サービス）とのコメントがある一方、「GOTO トラベルの全国一斉停止など自粛ムードが長引くと思われ、来期も悪化を予測。前年同期もコロナの影響はあったが、来期はさらに悪化すると思われる」（旅館）とのコメントがあった。

	前 期 (7~9月)		(C)	今 期 (10~12月)		
	(A)	来期見通し (10~12月)		前期比	来期見通し (1~3月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業 況	▲ 60.0	▲ 53.3	▲ 53.6	+6.4	▲ 46.4	+7.2
売 上 額	▲ 66.7	▲ 57.8	▲ 57.1	+9.6	▲ 52.4	+4.7
資 金 繰 り	▲ 37.8	▲ 37.8	▲ 33.4	+4.4	▲ 38.1	-4.7
採 算 (経 常 利 益)	▲ 60.0	▲ 51.1	▲ 54.7	+5.3	▲ 47.7	+7.0
従 業 員 (含 む 臨 時)	▲ 15.9	▲ 13.6	▲ 21.9	-6.0	▲ 17.0	+4.9

Ⅲ. 設備投資

全産業における今期（10～12月）の設備投資について、「実施した」とする企業は73件となり、前期と比べ8件増加した。

産業別では、「実施した」とする中で最も多かったのは、建設業（20件）、次いでサービス業（17件）、製造業（15件）の順となっている。

今期に「実施した」企業の設備内容で最も多かったのは、「車両・運搬具」（31件）次いで、「OA機器」（17件）、「建物・工場・店舗」「機械・設備・倉庫」（ともに14件）の順となっている。

来期の計画では、全産業で「計画している」としたのは54件で、今期と比べ19件減少している。

産業別では、「計画している」とした中で最も多かったのは、サービス業（14件）、次いで小売業（13件）、製造業（10件）の順となっている。

来期に「計画している」企業の設備内容については、「車両・運搬具」（17件）、「OA機器」（13件）、「機械・設備・倉庫」（11件）の順となっている。

設備投資状況

（▲印：減、件数）

	前 期 (7～9月)				今 期 (10～12月)					
	実施した (A)	実施しない	来期の計画 (10-12月)		実施した (C)	実施しない	前期比 (※) (C-A)	来期の計画 (1-3月)		
			計画している (B)	計画していない				計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)
全産業	65	149	59	155	73	121	8	54	140	▲ 19
建設業	14	27	9	32	20	20	6	8	32	▲ 12
製造業	19	26	15	30	15	24	▲ 4	10	29	▲ 5
卸売業	10	30	8	32	12	23	2	9	26	▲ 3
小売業	7	36	10	33	9	29	2	13	25	4
サービス業	15	30	17	28	17	25	2	14	28	▲ 3

設備内容（複数回答）

（件数）

	全 産 業		建 設 業		製 造 業		卸 売 業		小 売 業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
① 土地	6	3	1	1	0	1	4	1	0	0	1	0
② 建物・工場・店舗	14	7	3	1	2	0	2	3	5	1	2	2
③ 機械・設備・倉庫	14	11	2	0	8	6	2	0	0	2	2	3
④ 車両・運搬具	31	17	9	2	4	3	4	2	6	5	8	5
⑤ 付帯施設	10	8	2	1	2	1	2	0	1	3	3	3
⑥ OA 機器	17	13	8	3	0	1	4	4	1	3	4	2
⑦ 福利厚生施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧ その他	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
合 計	93	59	25	8	16	12	18	10	14	14	20	15

IV. 経営上の問題点

産業別における「経営上の問題点」は、製造業、卸売業、小売業、サービス業で「需要の停滞」を第1位に挙げている。建設業は前期に引き続き「熟練技術者の確保難」を第1位に挙げている。

2位以下の項目では、建設業で「民間需要の停滞」、製造業で「製品（加工）単価の低下・上昇難」「生産設備の不足・老朽化」、卸売業で「販売価格の低下・上昇難」「店舗・倉庫の狭隘・老朽化」「仕入単価の上昇」、サービス業で「利用者ニーズの変化への対応」「店舗施設の狭隘・老朽化」を問題点として挙げており、需要の停滞による売上の伸び悩みに加え、熟練技術者の確保難、製品（加工）・販売単価の低下・上昇難、製品・利用者ニーズの変化への対応、生産設備・店舗・倉庫・施設の狭隘・老朽化等が経営課題となっていることが窺える。

	1 位		2 位		3 位	
建設業	熟練技術者の確保難		民間需要の停滞		民間需要の停滞	
	27.8%	10 件	21.9%	7 件	25.0%	6 件
製造業	需要の停滞		製品（加工）単価の低下・上昇難		生産設備の不足・老朽化	
	47.2%	17 件	20.6%	7 件	22.2%	6 件
卸売業	需要の停滞		販売単価の低下・上昇難		店舗・倉庫の狭隘・老朽化 仕入単価の上昇	
	48.5%	16 件	30.0%	9 件	17.4%	4 件
小売業	需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞	
	23.5%	8 件	25.9%	7 件	16.7%	4 件
サービス業	需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応		利用者ニーズの変化への対応 店舗施設の狭隘・老朽化	
	32.5%	13 件	18.9%	7 件	16.1%	5 件

* %は1位、2位、3位それぞれの回答数（＝100%）の割合を示したもの。

参考：1～3位を累計した場合

	1 位		2 位		3 位	
建設業	民間需要の停滞		官公需要の停滞		熟練技術者の確保難	
	19.6%	18 件	17.4%	16 件	16.3%	15 件
製造業	需要の停滞		生産設備の不足・老朽化 製品（加工）単価の低下・上昇難		製品ニーズの変化への対応	
	20.6%	20 件	13.4%	13 件	11.3%	11 件
卸売業	需要の停滞		販売単価の低下・上昇難		仕入単価の上昇	
	31.4%	27 件	20.9%	18 件	15.1%	13 件
小売業	需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		販売単価の低下・上昇難	
	22.4%	19 件	15.3%	13 件	11.8%	10 件
サービス業	需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応 従業員の確保難		店舗施設の狭隘・老朽化	
	19.4%	21 件	15.7%	17 件	9.3%	10 件

* %は1位から3位までの総回答数（＝100%）の割合を示したもの。

【付帯調査】

◎新型コロナウイルス感染拡大による影響に関する調査

V. 業務への影響

- ・業務への影響について聞いたところ、回答のあった176件中、①「影響が続いている」が81件46.0%、次いで②「経済活動の停滞が長期化すると影響が出る懸念がある」の77件43.8%、③「影響はない」の18件10.2%の順となった。
- ・前回の回答と比べると③「影響はない」の割合が若干増加したものの、依然として約半数の企業が①「影響が続いている」ことが窺える結果となった。

選 択 肢	件数	構成比(%)
① 影響が続いている	81 (96)	46.0 (49.0)
② 経済活動の停滞が長期化すると影響が出る懸念がある	77 (83)	43.8 (42.3)
③ 影響はない	18 (17)	10.2 (8.7)
合 計	176 (196)	100.0 (100.0)

※（ ）は前回調査の数字

VI. 助成金・給付金の活用（予定を含む）について（複数回答可）

- ・助成金・給付金の活用（予定を含む）について聞いたところ、回答のあった176社中、①「国の持続化給付金」が76件43.2%、次いで③「国の雇用調整助成金」の37件21.0%、⑥「県の雇用維持支援金」の20件11.4%の順となり、6割を超える事業所が助成金・給付金を活用していることがわかった。

選 択 肢	件数	構成比(%)
① 国の持続化給付金	76	43.2
② 国の持続化補助金	8	4.5
③ 国の雇用調整助成金	37	21.0
④ 国の家賃支援給付金	15	8.5
⑤ 県の感染拡大防止協力金	19	10.8
⑥ 県の雇用維持支援金	20	11.4
⑦ 市の感染拡大防止協力金	17	9.7
⑧ 市の感染対策地域産業支援事業	12	6.8
⑨ その他	8	4.5
⑩ 活用（予定）していない	64	36.4

○その他のコメント

- ・製造業
 - ・県経営安定資金（食料品）

- ・卸売業
 - ・市の事業資金あっせん制度（マル市）（雑貨）
 - ・民間金融機関による実質無利息無担保融資（雑貨）
- ・小売業
 - ・無利子の借入金（メガネ）
- ・サービス業
 - ・県観光連盟コロナウイルス感染対策支援金（ホテル）
 - ・県宿泊施設創生支援事業費補助金（ホテル）
 - ・リモートワーク環境整備支援事業費補助金（情報サービス）
 - ・借入金に対する利子補助（情報サービス）

VII. 行政等に望む支援策について（複数回答可）

- ・行政等に望む支援策について聞いたところ、回答のあった176社中、①「補助金・給付金の拡大」が83件47.2%、次いで⑨「法人税の軽減税率（15%）の延長・恒久化」の66件37.5%、②「補助金等の申請手続の簡素化」の50件28.4%の順となった。

選 択 肢	件数	構成比（%）
①補助金・給付金の拡大	83	47.2
②補助金等の申請手続の簡素化	50	28.4
③消費活動を促す施策・イベント	44	25.0
④運転資金支援	32	18.2
⑤感染抑止を目的とする機器購入支援	33	18.8
⑥消毒液等の物資確保支援	17	9.7
⑦設備投資や販路開拓支援制度	22	12.5
⑧テレワークや在宅勤務の導入支援制度	16	9.1
⑨法人税の軽減税率（15%）の延長・恒久化	66	37.5
⑩中小・中堅企業のビジネスモデルの変革を後押しする税制措置	24	13.6
⑪中小企業向け設備投資減税、研究開発税制、所得拡大促進税制の延長・拡充・条件緩和	47	26.7
⑫デジタル化の促進	20	11.4
⑬その他	9	5.1
⑭該当なし	14	8.0

○その他のコメント

- ・建設業
 - ・若者入社に対しての長期支援金（総合工事）
 - ・公共工事発注の継続（設備工事）
- ・製造業
 - ・消費税減税（洋服）
 - ・秋田市だけが行なっている事業所税の廃止（印刷業）
 - ・スピード（全ての業務において）（金属製品）
 - ・雇用助成金特例措置（2020年3月から）の継続（金属製品）

- ・ 小売業
 - ・ 消費税を一定期間免税にする（生花）
- ・ サービス業
 - ・ 事業所税の軽減（旅館）
 - ・ 税金、社会保険料の免除（自動車整備）

VII. その他の意見・要望（自由記述）

- ・ 建設業
 - ・ 外国人に対しての言葉等の支援（総合工事）
 - ・ コロナが早く終息するよう願う（総合工事）
 - ・ 新型コロナウイルスに対する医療制度の拡充（PCR 検査など）（総合工事）
- ・ 製造業
 - ・ 新型コロナ感染の再拡大により、業績が大きく低迷している。特にお土産品に影響が大きく、再度家賃支援給付金等補助金を検討してもらいたい（食料品）
 - ・ いろんな支援策に対し、スピードアップを図ってほしい（木製品）
- ・ 小売業
 - ・ 物販に対しても割引商品券の発行などの支援策を行なってほしい（身の回り品）
 - ・ とにかく新型コロナウイルスワクチンの投与を急いでほしい。現政府のコロナ対策はあまりにお粗末。菅総理の責任は大きい（飲料品）
 - ・ コロナに特化しているが、コロナ問題と並行して秋田の抜本的な問題の企業誘致や移住をコロナと絡めてもっと押し進めて頂きたい（家電）
 - ・ 消費税、酒税、たばこ税などを免税にして消費を促す（生花）
- ・ サービス業
 - ・ 極めて影響の大きい企業に対して個別直接的な支援をお願いしたい（宴会場）
 - ・ 県内需要の喚起策として、秋田県民に浸透している秋田県プレミアム宿泊券、飲食券の第2弾を実施してほしい（旅館）

秋田市内企業景況調査

(第3四半期:2020年10月~12月)

(▲マイナス)

	受注残（未消化工事高）				採算（経常利益）				従業員（含む臨時）									
	前期(7～9月)				今期(10～12月)				前期(7～9月)				今期(10～12月)					
	来期見通 (10～12月)		前期比		来期見通(1～3月)		前期比		来期見通 (10～12月)		前期比		来期見通(1～3月)		前期比			
	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	(D)-(C)	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	(D)-(C)	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	(D)-(C)
全産業	▲ 46.3	▲ 38.5	▲ 36.4	+9.9	▲ 30.7	+5.7	▲ 50.7	▲ 45.3	▲ 38.4	+12.3	▲ 42.4	-4.0	▲ 15.8	▲ 14.9	▲ 16.4	-0.6	▲ 11.6	+4.8
建設業	▲ 23.1	▲ 22.5	▲ 23.1	0.0	▲ 27.5	-4.4	▲ 35.0	▲ 17.5	▲ 10.0	+25.0	▲ 20.0	-10.0	▲ 42.5	▲ 37.5	▲ 35.0	+7.5	▲ 27.5	+7.5
製造業	▲ 67.4	▲ 53.4	▲ 50.0	+17.4	▲ 34.2	+15.8	▲ 51.1	▲ 55.5	▲ 43.3	+7.8	▲ 47.3	-4.0	▲ 4.6	▲ 4.5	▲ 5.2	-0.6	▲ 2.7	+2.5
卸売業	—	—	—	—	—	—	▲ 60.0	▲ 57.5	▲ 38.3	+21.7	▲ 44.2	-5.9	▲ 2.6	▲ 2.7	0.0	+2.6	8.5	+8.5
小売業	—	—	—	—	—	—	▲ 46.5	▲ 42.9	▲ 46.0	+0.5	▲ 54.1	-8.1	▲ 14.3	▲ 17.1	▲ 17.2	-2.9	▲ 17.2	0.0
サービス業	—	—	—	—	—	—	▲ 60.0	▲ 51.1	▲ 54.7	+5.3	▲ 47.7	+7.0	▲ 15.9	▲ 13.6	▲ 21.9	-6.0	▲ 17.0	+4.9

※DI値：「増加」「好転」したとする企業割合から「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。
：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。(H13.10月より)

第1四半期 4月～6月期
第2四半期 7月～9月期
第3四半期 10月～12月期
第4四半期 1月～3月期

秋田市内企業景況調査結果（業種別比較表）
（第3四半期：2020年10月～12月）

1. 今期の状況

業 種 / 項 目		業 況			売上額・完成工事額			資 金 繰 り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)					
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足			
全産業	実数	15	92	85	36	45	112	17	128	46	10	29	38	21	75	94	19	120	50			
	%	7.8	47.9	44.3	18.7	23.3	58.0	8.9	67.0	24.1	13.0	37.7	49.4	11.1	39.5	49.5	10.1	63.5	26.5			
	D I	▲ 36.5			▲ 39.3			▲ 15.2			▲ 36.4			▲ 38.4			▲ 16.4					
建設業	実数	8	25	7	16	9	15	8	29	2	7	16	16	9	18	13	1	24	15			
	%	20.0	62.5	17.5	40.0	22.5	37.5	20.5	74.4	5.1	17.9	41.0	41.0	22.5	45.0	32.5	2.5	60.0	37.5			
	D I	2.5			2.5			15.4			▲ 23.1			▲ 10.0			▲ 35.0					
製造業	実数	2	18	18	3	11	24	2	28	7	3	13	22	3	15	19	5	26	7			
	%	5.3	47.4	47.4	7.9	28.9	63.2	5.4	75.7	18.9	7.9	34.2	57.9	8.1	40.5	51.4	13.2	68.4	18.4			
	D I	▲ 42.1			▲ 55.3			▲ 13.5			▲ 50.0			▲ 43.3			▲ 5.2					
卸売業	実数	0	19	16	3	11	21	0	27	8										2	31	2
	%	0.0	54.3	45.7	8.6	31.4	60.0	0.0	77.1	22.9										5.7	88.6	5.7
	D I	▲ 45.7			▲ 51.4			▲ 22.9												0.0		
小売業	実数	3	15	20	9	6	23	4	22	12										2	25	8
	%	7.9	39.5	52.6	23.7	15.8	60.5	10.5	57.9	31.6										5.7	71.4	22.9
	D I	▲ 44.7			▲ 36.8			▲ 21.1												▲ 17.2		
サービス業	実数	2	15	24	5	8	29	3	22	17										9	14	18
	%	4.9	36.6	58.5	11.9	19.0	69.0	7.1	52.4	40.5										22.0	34.1	43.9
	D I	▲ 53.6			▲ 57.1			▲ 33.4												▲ 21.9		

※D I値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。（H29. 4月より）

秋田市内企業景況調査結果（業種別比較表）
（第3四半期：2020年10月～12月）

2. 来期の見通し

業 種	項 目	業 況			売上額・完成工事額			資 金 繰 り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)								
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足						
全産業	実数	11	86	91	26	53	114	12	121	59	8	38	32	14	82	95	26	115	48						
	%	5.9	45.7	48.4	13.5	27.5	59.1	6.3	63.0	30.7	10.3	48.7	41.0	7.3	42.9	49.7	13.8	60.8	25.4						
	DI	▲ 42.5			▲ 45.6			▲ 24.4			▲ 30.7			▲ 42.4			▲ 11.6								
建設業	実数	3	25	12	12	15	13	6	30	4	6	17	17	6	20	14	4	21	15						
	%	7.5	62.5	30.0	30.0	37.5	32.5	15.0	75.0	10.0	15.0	42.5	42.5	15.0	50.0	35.0	10.0	52.5	37.5						
	DI	▲ 22.5			▲ 2.5			5.0			▲ 27.5			▲ 20.0			▲ 27.5								
製造業	実数	3	15	16	4	13	21	2	23	13	2	21	15	2	16	20	7	23	8						
	%	8.8	44.1	47.1	10.5	34.2	55.3	5.3	60.5	34.2	5.3	55.3	39.5	5.3	42.1	52.6	18.4	60.5	21.1						
	DI	▲ 38.3			▲ 44.8			▲ 28.9			▲ 34.2			▲ 47.3			▲ 2.7								
卸売業	実数	0	19	16	2	10	23	0	28	7										1	17	16	4	30	1
	%	0.0	54.3	45.7	5.7	28.6	65.7	0.0	80.0	20.0										2.9	50.0	47.1	11.4	85.7	2.9
	DI	▲ 45.7			▲ 60.0			▲ 20.0												▲ 44.2			8.5		
小売業	実数	2	11	25	2	7	29	1	20	16										2	13	22	2	25	8
	%	5.3	28.9	65.8	5.3	18.4	76.3	2.7	54.1	43.2										5.4	35.1	59.5	5.7	71.4	22.9
	DI	▲ 60.5			▲ 71.0			▲ 40.5												▲ 54.1			▲ 17.2		
サービス業	実数	3	16	22	6	8	28	3	20	19										3	16	23	9	16	16
	%	7.3	39.0	53.7	14.3	19.0	66.7	7.1	47.6	45.2										7.1	38.1	54.8	22.0	39.0	39.0
	DI	▲ 46.4			▲ 52.4			▲ 38.1												▲ 47.7			▲ 17.0		

※DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。（H29. 4月より）

参 考

市内景況調査に対する各企業のコメント

I 今期の特徴（2020 年 10-12 月）

1 建 設 業

- ・ 完成時期が伸びていて、来期にズレ込む工事が出てきた（総合工事）
- ・ 完成工事額は前年並になってきたが、利益が低下している（総合工事）
- ・ 大型工事の竣工により完成工事額は増加したが、人員は余剰となった（総合工事）
- ・ 繰越工事の完工に伴い、完成工事額、経常利益が増加（総合工事）
- ・ 昨年は完成工事数が多かったため、今年は完成工事額が少ないが、採算は悪いわけではない。主に下請を行なった（職別工事）
- ・ 完成工事額が前年比 20% 余り落ち込んでいる（職別工事）
- ・ 前期に完成工事額が上がったため、今期は減少した（職別工事）
- ・ 完成工事額は 20,878 千円で全体的に良かった（設備工事）
- ・ 再エネ関連工事が増加した（設備工事）
- ・ コロナ禍の割には受注が堅調だった（設備工事）
- ・ 人材不足により目標物件が受注できなかった（設備工事）
- ・ 外注費と資材費が高くなっている（設備工事）
- ・ 人手不足（設備工事）
- ・ 民間受注が減少した（設備工事）

2 製 造 業

- ・ 10 月の売上は昨年同月の消費税増税に伴う大幅減の裏返しにより二桁増となったが、11 月中旬からの新型コロナウイルス感染再拡大により出荷は悪化。12 月は忘年会が軒並み中止、「巣ごもりクリスマス」、料飲店の時短営業、帰省の自粛などにより出荷は低迷。年末年始の稼ぎ時に新型コロナウイルス感染第三波の影響がモロに直撃した形となっている（飲料品）
- ・ 気力なし（飲料品）
- ・ コロナの影響で巣ごもり用に向けた食材等が良かった（水産物）
- ・ コロナ感染拡大が収まらず、特にお土産品が低迷。その分、売上・収益に大きく影響した（食料品）
- ・ 新型コロナウイルスの影響が大である（衣服）
- ・ 国より 4,000 万円借入した（木製品）
- ・ 前期の受注残もあり、前半はスムーズだったが、予定していた商談が延期されたため、後半は厳しい状況だった（木製品）
- ・ 観光・イベント関連の受注減少が大きく、回復までに相応の期間を要する（印刷業）
- ・ スポット受注が売上増につながった（印刷業）
- ・ 設備計画が先延ばしになっている（金属製品）
- ・ 10 月以降は順調に受注が回復してきている（金属製品）
- ・ 需給バランスが崩れ、製品価格が低迷した（金属製品）
- ・ 11 月より受注が増加し、年末年始の工事も確保できた（金属製品）

3 卸 売 業

- ・ 売上、経費ともに減少のため利益は微妙（食料品）
- ・ コロナの影響による売上減少（水産物）
- ・ コロナ禍により都市部の売上が不調のため、地方市場に商品が集まることで仕入価格が低下。粗利益は確保できている（水産物）
- ・ コロナの影響で需要が停滞している（一般・事務機器等）
- ・ 売上は前年同期比 109.4%、採算は 73.5% となった（一般・事務機器等）
- ・ 売上が毎年下がってきている（今期も）（家電）
- ・ 10、11 月は GOTO キャンペーンのおかげで売上回復傾向も 12 月以降はコロナ感染拡大で再び悪化した（物産）

- ・ 前年は12月が最需要期だったが、今年は11月にピークが来て12月はほぼ計画通り。10月の落ち込み分を11月でカバーし、10-12月期で計画通り（建設資材）

4 小 売 業

- ・ 新型コロナウイルス感染の中、当店にはコロナとは関係なくお客様が多く来店し、売上増となった（時計）
- ・ 来店客の半減（コロナの影響）（カバン）
- ・ 客数減少により売上ダウンが続いており、回復の兆しが見込めない（身の回り品）
- ・ 売上に歯止めがかからない（洋服）
- ・ 12月の歳末商戦が思いのほか良い。コロナ禍の中、縁遠くなっている方々に贈る心が反映しているのか。ギフト商材の動きが良い（飲料品）
- ・ 9月ころから飲食店の売上が上向き傾向であったが、11月あたりから再び急速に冷え込み出した（飲料品）
- ・ 今期はGOTO トラベルの影響で売上は上がったが、春からのコロナ禍をカバーできる利益にはならなかった（食料品）
- ・ クリスマス商品の原料において他業種とのイチゴの争奪戦があり、予約を断らざるを得なかった。秋田の他の菓子店でも同様である。問屋は装飾品（オーナメント）のキャンセルに苦しんでいる（食料品）
- ・ 帰省客の減少が売上減少につながった（食料品）
- ・ 11、12月の売上は前年を若干下回っているが、経常ではコスト改善もあり、前年を上回っている（食料品）
- ・ 昨年の消費税増税の影響が出ている（自動車用品）
- ・ 県内では新型コロナウイルスの影響が減少し、メーカーの商品改良等が相次いでいることから市場が活発化傾向にあり、商品の出荷遅れや販売価格の低下はあるものの、昨年の消費税増税直後の落ち込みが大きかった分、増収・増益となった（自動車）
- ・ 売上減は避けられない。資金繰り、採算の改善に全力を尽くす（家電）
- ・ コロナの影響で葬儀・ブライダル関係が落ち込んでいる（生花）

5 サービス業

- ・ 顧客（特に個人）からの注文不足で何も検討できない状況である（洗濯）
- ・ 新型コロナウイルスの影響により団体客がほとんどなく、売上、採算ともに悪化した（旅館）
- ・ 売上は減少傾向である（情報サービス）
- ・ 継続的売上の確保による売上増（情報サービス）
- ・ コロナの影響で大きく売上減少（写真）
- ・ 依然としてコロナ禍の影響を受け、売上が減少している（ビルメンテナンス）
- ・ 落ち込みの大きかった貸し切りバス部門は、秋口に復調してきたが、再度落ち込んでいる状況。高速バスの運休・減便が続く、乗合バス部門も回復レベルにはほど遠い（運輸業）
- ・ 国産材、亜鉛鋳等の取扱数量の減少、定期傭船（内航海運業）の減少等により、前年同期比で約19%減少となる見込（運輸業）
- ・ 下半期の公共工事発注が若干減少したため、それに伴い売上も減少した（賃貸）
- ・ コロナのおかげで売上は前年の2割（飲食店等）

Ⅱ 来期の見通し（2021年1-3月）

1 建 設 業

- ・ 今期と同様の状況を見込む（総合工事）
- ・ 今年後半は盛り返してきたが、コロナによって今後はどうなるか不透明（総合工事）
- ・ コロナの影響が懸念される（総合工事）
- ・ 今年度後半から受注が順調であり、来期の受注残も多い（総合工事）
- ・ 冬期で動きが毎年悪い（総合工事）
- ・ 完成工事額が増加し、利益も上昇する見込（総合工事）
- ・ 完成工事額は年度末に向けて伸びると思うが、近年は公共工事の採算性が低調である（総合工事）
- ・ 新規受注は見込めるが、人員は余剰の予想（総合工事）
- ・ 完成工事額は増加の見込だが、粗利益率の低下により経常利益は減少の見込（総合工事）

- ・ 予定の工事が無い状態で見通しが暗い（職別工事）
- ・ 冬期は雪などの影響で工事自体が少なくなるので完成工事額は下降気味（職別工事）
- ・ 現時点で受注残が少なく、足の長い工事が無い（職別工事）
- ・ 最低でも 3,000 千円。それ以外は検討がつかない。メンテナンスは少々あるが、全国的にも JR からの事前通達が来ていない（設備工事）
- ・ NTT 関連工事が増加する見通し（設備工事）
- ・ 次期の見通しは不安（設備工事）
- ・ コロナ禍に影響され、物件が減少されると思う（設備工事）
- ・ 公共工事の減少が予想される（設備工事）
- ・ 人手不足が続く見通し（設備工事）
- ・ 前年からの繰越による竣工が主であり、受注は厳しくなりそう（設備工事）

2 製造業

- ・ 感染の終息に見切りをつけた飲食店の廃業が増えると考えられる。また、残業代やボーナスが激減して年収が下がった世帯は多いと思われ、今後支出の切り詰めの影響が表れるだろう（飲料品）
- ・ 売上大幅ダウンの見込（飲料品）
- ・ 緊急事態宣言発令により都市圏との交流も閉ざされる他、入学・卒業式の行事開催も懸念され、前年並の売上確保は難しい（食料品）
- ・ 今期と同じと思うが、秋田はまだコロナの影響が少ないので環境としては良い方だと思う（水産物）
- ・ 服が売れない（衣服）
- ・ コロナの影響による売上減少を見込む（木製品）
- ・ 今期のマイナス分を来期で挽回するのは無理かと思われる。官需、民需の掘り起こしを図る努力していきたい（木製品）
- ・ 前年同期と比べると仕事量が見えない（印刷業）
- ・ 見通しが立たない（金属製品）
- ・ 例年と比較して早い時期に受注が確定したので、工程が管理しやすい。コロナ感染者が増加して受注が減少しないか不安である（金属製品）
- ・ 引き続き売上額が低迷しそう（金属製品）
- ・ 大型案件が少なく、小額物件の数を増やし売上を確保する（金属製品）

3 卸売業

- ・ お土産市場が不透明なため、予測ができない状況である（食料品）
- ・ 今期と同様を見込む（水産物）
- ・ IT 導入補助金など売上につながる制度に期待する（一般・事務機器等）
- ・ コロナの影響による売上低下を見込む（一般・事務機器等）
- ・ 店主の高齢化が進み、店舗を閉めるという不安がある（家電）
- ・ 今期同様コロナ感染拡大の影響が出る見通し（物産）
- ・ 前年ほどの実績は見込めない予想である。来期の計画は達成できる予想となっている（建設資材）

4 小売業

- ・ 今期同様売上増を見込む（時計）
- ・ 引き続きコロナの影響による売上減少を見込む（カバン）
- ・ 引き続き厳しい状況だが、雪が多いと売上はプラスに働くため、現在 12 月の天候状況から見るとコロナのマイナス分を多少カバーできるかもしれない（身の回り品）
- ・ 持ちこたえられるかどうか？GOTO トラベル、観光業だけが大変なわけではない。他の中小企業にも政府の補助政策を！（洋服）
- ・ 年末年始は多少上向くが、それ以降の見通しは厳しいと思う（飲料品）
- ・ 巣ごもりの動きが広がっているうちは好転が見込めそうにない。リニューアルした通販サイトに期待を込めたい（飲料品）
- ・ コロナ禍が解決しない限りはなかなか難しい状況だと思う（食料品）
- ・ コロナ次第が見通しは暗い（食料品）
- ・ 雪の影響で 1 月期は売上減少を見込む（食料品）
- ・ 客数減少傾向であるが、客単価上昇により売上増を見込む（食料品）

- ・ 新型コロナウイルスの状況による（食料品）
- ・ 降雪量によっては売上等好転する可能性あり（自動車用品）
- ・ 全国的に新型コロナウイルス感染拡大が深刻化している中、メーカーの商品改良等でコンパクトカーを中心に市場が活発化し、一部商品でメーカーの生産が逼迫し、出荷遅れが発生していることに加え、緊急事態宣言等の影響から更に商品の出荷遅れが予測されることから減収・減益を見込む（自動車）
- ・ 脱はんこ等で先々の見通しがつかない（はんこ）
- ・ コロナ禍が続くと思われるのでしばらくは厳しい状況が続くと思う（生花）

5 サービス業

- ・ 頼みになっている国の予算（補助金）の支出に左右される（寝具）
- ・ 今期と同様、特別な状態である（洗濯）
- ・ 成人式、婚礼等の廃止や延期により売上減少を見込む（美容）
- ・ GOTO トラベルの全国一斉停止など自粛ムードが長引くと思われ、来期も悪化を予測。前年同期もコロナの影響はあったが、来期はさらに悪化すると思われる（旅館）
- ・ コロナ禍においてオンラインに関する事業が伸びてきているため、売上増加を見込む（情報サービス）
- ・ 引き続き売上減少が見込まれる（情報サービス）
- ・ 主要分野の売上増加は難しいものの、特需案件による売上確保を見込む（情報サービス）
- ・ しばらくは良くならないと思われる（写真）
- ・ コロナによって行事が中止になったりすると売上が減少する（写真）
- ・ 新規物件も少しは増えつつあるが、まだまだ回復していない（ビルメンテナンス）
- ・ 新型コロナの影響は極めて大きく、主力のバス事業の他、付随事業の日本航空受託事業も売上低下が著しい。年度決算はかつてない大幅な赤字となる見込である（運輸業）
- ・ 見通しが立たない（運輸業）
- ・ 公共工事の発注量がどうなるか、当社と関連する材料等が多くあるかによる。従って不透明な状況（賃貸）